

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390700015		
法人名	有限会社 栄友会		
事業所名	グループホーム 美星		
所在地	岡山県井原市美星町西水砂字横道291-2		
自己評価作成日	令和 5 年 5 月 2 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設の居室は横一列に並んでいる為、全ての部屋の日当たりが良い。美星町は星がきれいで空気もよく、静かで穏やかに過ごせる環境に恵まれている。個々の身体能力に応じた対応を心がけ、散歩や唄うなどレクレーションに力をいれている。またボランティアを積極的に受け入れている。外部に出かけたり楽しんでもらえるようなイベントを企画して提供している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390700015-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 5 月 16 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、朝日の元気なパワーを全身に浴びて、過去の負のスパイラル全てをリセットし、新たな一日の生活を時計の針と同時にアクティビティに刻んでいる。職員は、利用者全員の生活歴を考慮して、その人その人の日々の介護に役立てている。「ここは家だ」、「今まで生きてきた生活を大切にしたい。」と考え、その人らしく対応が築けるように配慮している。毎朝、体操や歌のレクを行うので、フラストレーションが溜まりにくい。昔携わっていた農業や美星地区の名物である星や地域についての会話を数多くすることで、昔馴染みを忘れないように取り組んでいる。月に1回、職員が考えたレク、グランドゴルフ、カロリング、美星町カルタを楽しみながら、コロナ禍でのストレスの解消としている。家族に対しては、面会は窓越しを基本とし、耳が不自由な方へはホワイトボードを活用して縁を深めている。2ヶ月に1回、『星のしずく新聞』を発行し、「利用者の様子が手に取るようにわかる」と家族から好評で、さらに動画を見て頂いたら、涙が出るくらい喜んで頂けた。家庭的な雰囲気が一番として、規則にとらわれず、自分のペースで自分らしく生活をして頂くことを心に刻んでいる。生き生きとした職員と利用者の元気な姿を満天の星空が静かに見守っている施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の基本的人権を尊重し、安心生きがいを持った生活が送れることを目標とした理念を掲げている。利用者の残存能力を見極め、能力が低下しないように考え、出来る事はお願ひする。	行動指針にある「感謝、思いやり、和」のころを大切に、日々の介護に取り組んでいる。タイムカードの前に貼ることで、出勤時に職員の目に触れ易く、確認できる。ミーティング時には納得がいくように確認する機会を設けている。外国の方にも分かりやすい母国語バージョンも用意している。	素晴らしい理念をもっと浸透させるために、見えるところにも貼ってみてはいかがでしょうか？	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以前には、近所の方が毎日訪れ、歌などの交流が出来ている。中学生の職場体験学習の受け入れ、地域の行事や作業にも職員が参加している。	町内会には加入して、地域清掃には極力参加している。地域の方と会った際には、挨拶を交わす関係もできている。地域イベントの際には、差し入れを持っていき、反対に地域の方から柿を頂いたこともあった。病院受診の帰りに、実家付近を通ったら、近隣住民が手を振って挨拶をして頂いたことがあった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて民生委員や自治会長にグループホームを見ていただいている。中学生の職場体験、ボランティア体験の受け入れを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に開かれた事業所として意見をいただいている。	現在は、コロナ禍ということもあり、書面にて開催し、議事録を郵送している。施設長、ケアマネジャー、市の介護保険課、家族が参加し、入居者状況、行事報告、コロナ関連についての報告を行った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターと居室の空き状況や、入所待ちなどの情報を交換している。入居希望者の情報を頂くこともある。	窓口は、施設長。空き状況の確認やコロナ関連の情報提供がある。わからないことがあれば、何でも聞ける関係が継続されている。介護保険更新時に役場に出向き、face to face の関係から縁が深まっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が拘束に当たるのか職員で話し合い、やむを得ない場合は家族と相談し、同意書を書いていただく。	年3回、身体拘束委員会を開催し、事例を参考に意見を出し合っている。命令口調、スピーチロック、尊厳の否定にならないよう言葉遣いについても確認をし、家族にもお伝えしている。地域の特性上、安全面に配慮して、玄関は施錠している。研修会では、スピーチロックについて取り上げて、職員間で協議している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体・言葉など何が虐待に当たるのか、ミーティングや普段から話し合い取り組んでいく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が研修会に参加し報告書を作成提出するとともにミーティングの場で報告する。報告書は綴りにしいつでも自由に閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込みの時点でグループホーム美星のパンフレットを提示し、入居費用や入居時に契約書をもって当事業所の規約や職員の配置、介護内容、医療連携等を説明している。解約についても必要事項を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	それぞれ面会時に日頃の状態を伝えていく中で家族から何か要望がないか確かめている。また、受付に意見箱を設置し、家族が自由に記入できるようにしている。	面会は窓越しを基本とし、耳が不自由な方へはホワイトボードを活用している。家族からの差し入れも本人の嚥下の状況を確認して行っている。2ヶ月に1回、星のしずく新聞を発行し、利用者の様子がわかるとの好評の声を頂いた。ブログの更新も行い、動画は、日常の様子が分かり、家族の方に喜んで頂いた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期のミーティングで会社の方針や注意点を話し、職員からも意見や希望を各自が自由に述べる機会を作っている。	職員からの提案で、月1回のイベントを開催し、グランドゴルフやカロリング、お菓子釣りは、とても好評だった。勤務での休みもしっかりとれる体制が整っている。聞き取り時には、職員は「仕事は楽しいです」と答えてくれた。外国人職員の対応も、丁寧に理解しやすく説明し、翻訳もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表は職員の休み希望を取り入れ健康保持に注意している。勤務に支障が出ない範囲で有給を使えるようにしている。体調不良など急な休みでも他の職員がカバーするなど協力体制の取れるように心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	ミーティングを通じて、個々のスキルアップや 研修会に出来るだけ参加するように働きかけ ている。また研修参加の日時の調整や費用を 援助するなどしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	同業者との交流は非常に大切にしている。情 報の共有は特に連携に気をつけている。取り 入れる事があれば出来るだけ吸収している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入所までに家族や入所前の施設・事業所・病 院から出来るだけの情報は収集しておき、必 要な援助が継続でき、さらに向上できるように 環境作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	家族の話や収集した情報から家族にグルー プホーム美星として出来ること出来ないことを きちんと説明する。入所すれば解決すること もあるのでしっかり話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報を収集し、入所しての問題点を 割合の大きい順に暫定計画を立てて対応して いる。暫定計画の期間内に上がってくる問題 点などをアセスメントし援助計画を作成・対応 している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	経験してきた職業や得意な事、生活してきた 知識を教えていただくという接し方を心掛けて いる。出来る事はお願いし、食器洗いや洗濯 物たたみなど一緒に行い、役割を持っていた だけのように働きかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所されてからの状態は面会時や電話などで細かく伝え、日頃の生活状況が分かるようにしている。必要なものを持ってきていただいたり購入が必要であれば了解を得るなど、常に家族と相談しながら入所生活を継続する方法で働きかけている。医療的に希望がある時にはかかりつけ医と一緒に話し合う方針にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外に親戚や地域の方が面会に来られても家族同様に迎え入れ、話をさせていただくよう心掛けている。	リビングで座る席が馴染みの場所となり、利用者同士が親しく、挨拶を交わす関係ができた。廊下のソファに腰掛けおしゃべりするのが安心を呼んでいる。毎日の散歩コースのベンチに座り、穏やかに休憩し、畑や桜の木など自然の緑が利用者に溶け込んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で口論になることがある時は話の仲介をしたり、少し距離を置いてみたり調整を行っている。利用者の行動で不審に思うような行動を気にされる方には、説明し悪い印象を長引かせないような働きを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設や事業所に必要な情報提供を細かく行い、退所後も落ち着いた生活が継続できるようにしている。退所後も依頼があれば今後の施設入所の為の会議にも出席している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望や外食など出来る範囲の事は聞いてあげるようにしている。希望どおりにはしてあげられない事もあるが出来るだけ本人の希望に近いことで満足や気分転換ができる事を模索している。	言葉をあまり発しない方へは、選択肢を与えて聞き取りやすい工夫をしている。居室やお風呂、散歩中の1対1の場面は、開放的になり、貴重な意見を聴取する場となっている。朝日を浴びながら、ベランダで外の景色を見ながらの会話が息抜きとなっている。入居時にアセスメントシートを記入することで、思いを把握し、表情や仕草からも読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族や入所していた施設・事業所・病院から詳しく聞くようにしている。不足の情報は入所後も家族や先方に情報を求めることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活や能力等の状況については。申し送りやミーティング・日々の勤務者同士で情報交換を行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々収集した情報をケアチェック表でアセスメントし、生活力・問題点・本人や家族の希望や意見などを計画作成につなげている。	ケアマネジャーが現場で気づいたことや月1回のミーティングから情報共有をしている。ケアチェック表にて、食事・水分、排泄・入浴などを細かく記載することで、より丁寧な支援ができるように工夫している。モニタリングは毎月実施し、長期目標に即した課題を設定している。更新時にカンファレンスを開催し、ケアプランは家族にも照会している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録は簡潔に。変化がある時はその都度記録を入れている。情報交換をする場合は連絡帳を利用し、確認したらチェックを入れる。ユニットミーティングで個々の変化・前回の実践結果を話し合い、今後の援助に活かしている。話し合いはミーティング記録に記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの価値観や今まで生活してきた環境が違うのでその人に合ったことを出来るだけ細やかに察して対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩などに出かけて地域の人とのふれあいを大切にしている。地域の農家から野菜を仕入れたり、地域の医院にかかりつけ医をお願いして常日頃から気軽に相談や受診をして健康管理をしていただくなど。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入所が決定する時に家族と話し合い、希望されれば今までのかかりつけ医へ継続して通院していただく事もある。グループホーム美星のかかりつけ医に受診する事も可能。紹介状は必要。	かかりつけ医は、前のかかりつけ医を受診している方が多く、定期受診は職員が連れていく。歯科は何かあれば、訪問してくれ、入れ歯の手入れの仕方も指導して頂ける。ドクターに会うのを楽しみにしている方も多く、馴染みの関係となっている。夜間帯に何か起きた場合は、施設長やケアマネジャーの判断を仰いで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、職場内に看護師はいないが利用者の体調に変化があればかかりつけ医に相談し、指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に際しては、かかりつけ医からの情報提供・施設内の情報提供を入院先の病院にしている。入院中の状況や退院に際しての相談も家族や病院側と行いスムーズに入所生活に戻れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応に関しては入所時に書面で対応を説明している。医師が常時いるわけでもなく、施設には医療器具もないので医療行為の比重が大きくなれば入院対応に切り替えざるを得ないことを家族に理解していただくようにしている。	入居時に、「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。看取り期に差し掛かった場合には、ドクターの指示を参考にし、家族の意向に合わせた対応をしている。重度化した場合には、再度意見を聞く場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し提示するとともに日々の介護の中で職員に対応の仕方を説明している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議でも話題にして、地域の協力をお願いをするなど協力体制を築くようにする。所内、駐車場への避難では対応しきれなかった場合は、地域の方の協力を仰ぐ。	年2回、屋設定で火災訓練を実施した。利用者が歩行か車椅子で避難するのかの確認を行った。前回の反省点をあげることで、次の訓練に活かすことができている。連絡網はリビングに掲示している。お茶や水、お菓子がいざという時の備蓄となっている。	災害対策を今一度見直してみてもいいかながらうか？
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苗字やフルネームでさん付けをした声掛けを行い、自分が誰であるのか確認できるようにしている。	呼称は、苗字に「さん」付けで統一している。排泄失敗時には、「お家の人から頼まれた」「ごめんなさい。換えさせて～」と言葉掛けをしている。入室時には、ノックをし、「失礼します」と言葉をかけて、本人の了承を得た上で、入室している。洗濯物やシーツ交換の際にも、ノックを3回ゆっくりとして、了解を得てから行動している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の希望が出しやすいように、どうしましょうか？など声掛けを工夫する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人に合わせた起床時間、体調に合わせたり希望に沿って昼寝の時間を設けるなど、それぞれにあった一日の過ごし方をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を着る、着衣の乱れを直す、季節に合った服が着れているか、ボタンが取れたり破れがないかなどを気をつけて援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	箸・茶碗はそれぞれの使っていた物であったり、使い勝手の良い大きさや軽さの物を準備している。咀嚼や嚥下力を考慮し、主食・副食を粥・米飯・カット菜など個人にあったものにし、出来るだけ見た目もきれいに盛り付けるように心掛けている。出来る方には洗い物や食器拭きも参加していただいている。	食事は業者から食材が届き、施設内で調理している。美味しく召し上がっている様子を窺え、残食はほぼゼロである。いつも洗い物を手伝ってくれる利用者がいる。誕生日は赤飯の提供や、カレーやうどんの日を設けている。お正月には、お節料理やベトナムの善哉を振舞ったら好評だった。たこ焼き、焼きそばを作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量不足の方は、かかりつけ医の定期的な検査で栄養バランスをチェックしており、必要時は食事量の増減や高カロリー飲料を追加するなどをしている。水分量は毎回の量を記録し、一日量を把握し、一定量を飲めるようにしている。お茶だけでなくコーヒー・紅茶・清涼飲料水など本人が飲みやすいものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ毎食後に口腔ケアが出来るように援助している。自分で出来ない方には介助して行う。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	起床・就寝前・食事前など定期的に、また個々の排尿間隔にあわせた時間でも排尿誘導を行っている。自分で起立出来る方は皆トイレ誘導している。	奥の部屋から各ユニットごとに4ヶ所トイレがついている。排泄チェック表を活用し、量や硬さを記入するだけでなく、色分けすることでわかりやすくしている。トイレというワードを使わず、「ちょっと行こう」と誘導する工夫が見られた。排泄失敗時は、「お茶がこぼれてる」「着替えよう」と言葉かけをして自尊心を傷つけないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や飲むヨーグルトなど、必要な方は整腸剤を使っている。排便チェック表で便秘の有無を確認して緩剤で排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日時は個々に合わせるの難しいが、気分よく入浴できるような声かけを心掛けている。熱や血圧その日の体調も考慮し、入浴の可否を決めている。	週3回の入浴。ほとんどの方が浴槽に浸かれる。シャワー浴や足浴、ドライシャンプー、清拭にも対応している。入浴を拒否される方へは、お風呂というワードを使用せず、「美味しいものを食べよう」「ちょっと良い所に行こう」と誘導する工夫が見られた。入浴剤や季節湯としてゆず湯をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望やその日の体調・睡眠状況や覚醒度により昼間臥床していただく時間を設けたり、リビングで過ごす時間を決めている。日中起きている時間を増やし、なるべく日中逆転にならないように気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に薬箱を準備し、薬名・個数・服薬時間・配薬時確認できるようにしている。臨時薬については連絡帳に明記し確認している。特に安定剤や抗生剤などが出た場合は経過をよく観察し、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗い物や食器拭きなど食事の盛り付けなど役割を持っている。折り紙や歌、畑の手伝い、プランターの水やりなどをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出するのは散歩や病院受診が主だが、毎月のイベントなど外出する機会を設けている。利用者によっては定期的に帰宅したり外食したりする事もある。	病院受診の際には、住み慣れた家の周りを通っている。施設内の散歩が日課となっている方もいる。ドライブで、花見や山の頂上で景色を眺めた。洗濯物干し、ごみ捨て、花の水やりが日課となっている。外出支援に代わる、レクを職員が考えて月1回実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診や本人が必要なものは預かり金を持参し、支払いをしている。利用者には職員でお金を管理し、預かっているという声かけをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からかかってきた時には本人が希望すれば出て話しをしていただく。小包など頂いた場合は職員が介助し、電話してお礼の言葉を伝える援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外がよく見えるように明るい間はカーテンをいつも開けて季節を感じて貰い、暑い時は閉めるようにしている。屋内は随時掃除をし、汚れや水漏れなどいつまでも無いように気をつけている。汚物は臭いが出ないように新聞紙で包み蓋付き容器に保管し、ごみと共に毎日屋外設置場に出している。	リビングでは、2ユニット間がまっすぐ繋がっている。朝のレクでは、元気よく体操をしたり、歌を歌ったりしている様子が窺えた。テラスに出て、日向ぼっこをすることもある。TVを観たり、塗り絵をしたり、数字合わせをして、自分の時間を過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長いすをホールの隅に設置し、ゆったり座って過ごせるようにしている。気の合わない利用者は席を離したり、状況に応じてテーブル・席を変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた寝具を持参していただいている。重いものや使い勝手の悪い物は適宜、使いやすい物に交換して家族に持参していただいている。普段、畳で休んでいた方や落下の危険がある方は畳を敷いて利用していただく。	備え付けは、ベッド、エアコン、カーテン、タンス、奥の4部屋のみトイレ付。全室、窓からは自然と雄大な山々を眺めることができる。家族や孫の写真を飾ったり、好きな本を読んだりして過ごしている。誕生日に職員からプレゼントされた色紙を大切に飾っていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はフラットにし居室トイレや廊下には手すりを設置して移動時に自力でも動きやすくしている。居室のベッドも個々の生活条件に合わせた高さに調整したりたたみを敷いたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390700015		
法人名	有限会社 栄友会		
事業所名	グループホーム 美星		
所在地	岡山県井原市美星町西水砂字横道291-2		
自己評価作成日	令和 5 年 5 月 2 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設の居室は横一列に並んでいる為、全ての部屋の日当たりが良い。美星町は星がきれいで空気もよく、静かで穏やかに過ごせる環境に恵まれている。個々の身体能力に応じた対応を心がけ、散歩や唄うなどレクレーションに力をいれている。またボランティアを積極的に受け入れている。外部に出かけたり楽しんでもらえるようなイベントを企画して提供している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390700015-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 5 月 16 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、朝日の元気なパワーを全身に浴びて、過去の負のスパイラル全てをリセットし、新たな一日の生活を時計の針と同時にアクティビティに刻んでいる。職員は、利用者全員の生活歴を考慮して、その人その人の日々の介護に役立てている。「ここは家だ」、「今まで生きてきた生活を大切にしたい。」と考え、その人らしく対応が築けるように配慮している。毎朝、体操や歌のレクを行うので、フラストレーションが溜まりにくい。昔携わっていた農業や美星地区の名物である星や地域についての会話を数多くすることで、昔馴染みを忘れないように取り組んでいる。月に1回、職員が考えたレク、グランドゴルフ、カロリング、美星町カルタを楽しみながら、コロナ禍でのストレスの解消としている。家族に対しては、面会は窓越しを基本とし、耳が不自由な方へはホワイトボードを活用して縁を深めている。2ヶ月に1回、『星のしずく新聞』を発行し、「利用者の様子が手に取るようにわかる」と家族から好評で、さらに動画を見て頂いたら、涙が出るくらい喜んで頂けた。家庭的な雰囲気が一番として、規則にとらわれず、自分のペースで自分らしく生活をして頂くことを心に刻んでいる。生き生きとした職員と利用者の元気な姿を満天の星空が静かに見守っている施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の基本的人権を尊重し、安心生きがいを持った生活が送れることを目標とした理念を掲げている。利用者の残存能力を見極め、能力が低下しないように考え、出来る事はお願ひする。	行動指針にある「感謝、思いやり、和」のころを大切に、日々の介護に取り組んでいる。タイムカードの前に貼ることで、出勤時に職員の目に触れ易く、確認できる。ミーティング時には納得がいくように確認する機会を設けている。外国の方にも分かりやすい母国語バージョンも用意している。	素晴らしい理念をもっと浸透させるために、見えるところにも貼ってみてはいかがでしょうか？	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以前には、近所の方が毎日訪れ、歌などの交流が出来ている。中学生の職場体験学習の受け入れ、地域の行事や作業にも職員が参加している。	町内会には加入して、地域清掃には極力参加している。地域の方と会った際には、挨拶を交わす関係もできている。地域イベントの際には、差し入れを持っていき、反対に地域の方から柿を頂いたこともあった。病院受診の帰りに、実家付近を通ったら、近隣住民が手を振って挨拶をして頂いたことがあった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて民生委員や自治会長にグループホームを見ていただいている。中学生の職場体験、ボランティア体験の受け入れを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に開かれた事業所として意見をいただいている。	現在は、コロナ禍ということもあり、書面にて開催し、議事録を郵送している。施設長、ケアマネジャー、市の介護保険課、家族が参加し、入居者状況、行事報告、コロナ関連についての報告を行った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターと居室の空き状況や、入所待ちなどの情報を交換している。入居希望者の情報を頂くこともある。	窓口は、施設長。空き状況の確認やコロナ関連の情報提供がある。わからないことがあれば、何でも聞ける関係が継続されている。介護保険更新時に役場に出向き、face to face の関係から縁が深まっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が拘束に当たるのか職員で話し合い、やむを得ない場合は家族と相談し、同意書を書いていただく。	年3回、身体拘束委員会を開催し、事例を参考に意見を出し合っている。命令口調、スピーチロック、尊厳の否定にならないよう言葉遣いについても確認をし、家族にもお伝えしている。地域の特性上、安全面に配慮して、玄関は施錠している。研修会では、スピーチロックについて取り上げて、職員間で協議している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体・言葉など何が虐待に当たるのか、ミーティングや普段から話し合い取り組んでいく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が研修会に参加し報告書を作成提出するとともにミーティングの場で報告する。報告書は綴りにしいつでも自由に閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込みの時点でグループホーム美星のパンフレットを提示し、入居費用や入居時に契約書をもって当事業所の規約や職員の配置、介護内容、医療連携等を説明している。解約についても必要事項を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	それぞれ面会時に日頃の状態を伝えていく中で家族から何か要望がないか確かめている。また、受付に意見箱を設置し、家族が自由に記入できるようにしている。	面会は窓越しを基本とし、耳が不自由な方へはホワイトボードを活用している。家族からの差し入れも本人の嚥下の状況を確認して行っている。2ヶ月に1回、星のしずく新聞を発行し、利用者の様子がわかるとの好評の声を頂いた。ブログの更新も行い、動画は、日常の様子が分かり、家族の方に喜んで頂いた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期のミーティングで会社の方針や注意点を話し、職員からも意見や希望を各自が自由に述べる機会を作っている。	職員からの提案で、月1回のイベントを開催し、グランドゴルフやカロリング、お菓子釣りは、とても好評だった。勤務での休みもしっかりとれる体制が整っている。聞き取り時には、職員は「仕事は楽しいです」と答えてくれた。外国人職員の対応も、丁寧に理解しやすく説明し、翻訳もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表は職員の休み希望を取り入れ健康保持に注意している。勤務に支障が出ない範囲で有給を使えるようにしている。体調不良など急な休みでも他の職員がカバーするなど協力体制の取れるように心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングを通じて、個々のスキルアップや研修会に出来るだけ参加するように働きかけている。また研修参加の日時の調整や費用を援助するなどしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は非常に大切にしている。情報の共有は特に連携に気をつけている。取り入れる事があれば出来るだけ吸収している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所までに家族や入所前の施設・事業所・病院から出来るだけの情報は収集しておき、必要な援助が継続でき、さらに向上できるように環境作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話や収集した情報から家族にグループホーム美星として出来ること出来ないことをきちんと説明する。入所すれば解決することもあるのでしっかり話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報を収集し、入所しての問題点を割合の大きい順に暫定計画を立てて対応している。暫定計画の期間内に上がってくる問題点などをアセスメントし援助計画を作成・対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	経験してきた職業や得意な事、生活してきた知識を教えていただくという接し方を心掛けている。出来る事はお願いし、食器洗いや洗濯物たたみなど一緒に行い、役割を持っていたけように働きかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所されてからの状態は面会時や電話などで細かく伝え、日頃の生活状況が分かるようにしている。必要なものを持ってきていただいたり購入が必要であれば了解を得るなど、常に家族と相談しながら入所生活を継続する方法で働きかけている。医療的に希望がある時にはかかりつけ医と一緒に話し合う方針にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外に親戚や地域の方が面会に来られても家族同様に迎え入れ、話をさせていただくよう心掛けている。	リビングで座る席が馴染みの場所となり、利用者同士が親しく、挨拶を交わす関係ができた。廊下のソファに腰掛けおしゃべりするのが安心を呼んでいる。毎日の散歩コースのベンチに座り、穏やかに休憩し、畑や桜の木など自然の緑が利用者に溶け込んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で口論になることがある時は話の仲介をしたり、少し距離を置いてみたり調整を行っている。利用者の行動で不審に思うような行動を気にされる方には、説明し悪い印象を長引かせないような働きを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設や事業所に必要な情報提供を細かく行い、退所後も落ち着いた生活が継続できるようにしている。退所後も依頼があれば今後の施設入所の為の会議にも出席している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望や外食など出来る範囲の事は聞いてあげるようにしている。希望どおりにはしてあげられない事もあるが出来るだけ本人の希望に近いことで満足や気分転換ができる事を模索している。	言葉をあまり発しない方へは、選択肢を与えて聞き取りやすい工夫をしている。居室やお風呂、散歩中の1対1の場面は、開放的になり、貴重な意見を聴取する場となっている。朝日を浴びながら、ベランダで外の景色を見ながらの会話が息抜きとなっている。入居時にアセスメントシートを記入することで、思いを把握し、表情や仕草からも読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族や入所していた施設・事業所・病院から詳しく聞くようにしている。不足の情報は入所後も家族や先方に情報を求めることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活や能力等の状況については。申し送りやミーティング・日々の勤務者同士で情報交換を行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々収集した情報をケアチェック表でアセスメントし、生活力・問題点・本人や家族の希望や意見などを計画作成につなげている。	ケアマネジャーが現場で気づいたことや月1回のミーティングから情報共有をしている。ケアチェック表にて、食事・水分、排泄・入浴などを細かく記載することで、より丁寧な支援ができるように工夫している。モニタリングは毎月実施し、長期目標に即した課題を設定している。更新時にカンファレンスを開催し、ケアプランは家族にも照会している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録は簡潔に。変化がある時はその都度記録を入れている。情報交換をする場合は連絡帳を利用し、確認したらチェックを入れる。ユニットミーティングで個々の変化・前回の実践結果を話し合い、今後の援助に活かしている。話し合いはミーティング記録に記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの価値観や今まで生活してきた環境が違うのでその人に合ったことを出来るだけ細やかに察して対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩などに出かけて地域の人とのふれあいを大切にしている。地域の農家から野菜を仕入れたり、地域の医院にかかりつけ医をお願いして常日頃から気軽に相談や受診をして健康管理をしていただくなど。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入所が決定する時に家族と話し合い、希望されれば今までのかかりつけ医へ継続して通院していただく事もある。グループホーム美星のかかりつけ医に受診する事も可能。紹介状は必要。	かかりつけ医は、前のかかりつけ医を受診している方が多く、定期受診は職員が連れていく。歯科は何かあれば、訪問してくれ、入れ歯の手入れの仕方も指導して頂ける。ドクターに会うのを楽しみにしている方も多く、馴染みの関係となっている。夜間帯に何か起きた場合は、施設長やケアマネジャーの判断を仰いで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、職場内に看護師はいないが利用者の体調に変化があればかかりつけ医に相談し、指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に際しては、かかりつけ医からの情報提供・施設内の情報提供を入院先の病院にしている。入院中の状況や退院に際しての相談も家族や病院側と行いスムーズに入所生活に戻れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応に関しては入所時に書面で対応を説明している。医師が常時いるわけでもなく、施設には医療器具もないので医療行為の比重が大きくなれば入院対応に切り替えざるを得ないことを家族に理解していただくようにしている。	入居時に、「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。看取り期に差し掛かった場合には、ドクターの指示を参考にし、家族の意向に合わせた対応をしている。重度化した場合には、再度意見を聞く場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し提示するとともに日々の介護の中で職員に対応の仕方を説明している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議でも話題にして、地域の協力をお願いをするなど協力体制を築くようにする。所内、駐車場への避難では対応しきれなかった場合は、地域の方の協力を仰ぐ。	年2回、屋設定で火災訓練を実施した。利用者が歩行か車椅子で避難するのかの確認を行った。前回の反省点をあげることで、次の訓練に活かすことができている。連絡網はリビングに掲示している。お茶や水、お菓子がいざという時の備蓄となっている。	災害対策を今一度見直してみてもいいかな？
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苗字やフルネームでさん付けをした声掛けを行い、自分が誰であるのか確認できるようにしている。	呼称は、苗字に「さん」付けで統一している。排泄失敗時には、「お家の人から頼まれた」「ごめんなさい。換えさせて～」と言葉掛けをしている。入室時には、ノックをし、「失礼します」と言葉をかけて、本人の了承を得た上で、入室している。洗濯物やシーツ交換の際にも、ノックを3回ゆっくりとして、了解を得てから行動している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の希望が出しやすいように、どうしましょうか？など声掛けを工夫する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人に合わせた起床時間、体調に合わせたり希望に沿って昼寝の時間を設けるなど、それぞれにあった一日の過ごし方をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を着る、着衣の乱れを直す、季節に合った服が着れているか、ボタンが取れたり破れがないかなどを気をつけて援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	箸・茶碗はそれぞれの使っていた物であったり、使い勝手の良い大きさや軽さの物を準備している。咀嚼や嚥下力を考慮し、主食・副食を粥・米飯・カット菜など個人にあったものにし、出来るだけ見た目もきれいに盛り付けるように心掛けている。出来る方には洗い物や食器拭きも参加していただいている。	食事は業者から食材が届き、施設内で調理している。美味しく召し上がっている様子を窺え、残食はほぼゼロである。いつも洗い物を手伝ってくれる利用者がいる。誕生日は赤飯の提供や、カレーやうどんの日を設けている。お正月には、お節料理やベトナムの善哉を振舞ったら好評だった。たこ焼き、焼きそばを作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量不足の方は、かかりつけ医の定期的な検査で栄養バランスをチェックしており、必要時は食事量の増減や高カロリー飲料を追加するなどをしている。水分量は毎回の量を記録し、一日量を把握し、一定量を飲めるようにしている。お茶だけでなくコーヒー・紅茶・清涼飲料水など本人が飲みやすいものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ毎食後に口腔ケアが出来るように援助している。自分で出来ない方には介助して行う。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	起床・就寝前・食事前など定期的に、また個々の排尿間隔にあわせた時間でも排尿誘導を行っている。自分で起立出来る方は皆トイレ誘導している。	奥の部屋から各ユニットごとに4ヶ所トイレがついている。排泄チェック表を活用し、量や硬さを記入するだけでなく、色分けすることでわかりやすくしている。トイレというワードを使わず、「ちょっと行こう」と誘導する工夫が見られた。排泄失敗時は、「お茶がこぼれてる」「着替えよう」と言葉かけをして自尊心を傷つけないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や飲むヨーグルトなど、必要な方は整腸剤を使っている。排便チェック表で便秘の有無を確認して緩剤で排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日時は個々に合わせるの難しいが、気分よく入浴できるような声かけを心掛けている。熱や血圧その日の体調も考慮し、入浴の可否を決めている。	週3回の入浴。ほとんどの方が浴槽に浸かれる。シャワー浴や足浴、ドライシャンプー、清拭にも対応している。入浴を拒否される方へは、お風呂というワードを使用せず、「美味しいものを食べよう」「ちょっと良い所に行こう」と誘導する工夫が見られた。入浴剤や季節湯としてゆず湯をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望やその日の体調・睡眠状況や覚醒度により昼間臥床していただく時間を設けたり、リビングで過ごす時間を決めている。日中起きている時間を増やし、なるべく日中逆転にならないように気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に薬箱を準備し、薬名・個数・服薬時間・配薬時確認できるようにしている。臨時薬については連絡帳に明記し確認している。特に安定剤や抗生剤などが出た場合は経過をよく観察し、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗い物や食器拭きなど食事の盛り付けなど役割を持っている。折り紙や歌、畑の手伝い、プランターの水やりなどをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出するのは散歩や病院受診が主だが、毎月のイベントなど外出する機会を設けている。利用者によっては定期的に帰宅したり外食したりする事もある。	病院受診の際には、住み慣れた家の周りを通っている。施設内の散歩が日課となっている方もいる。ドライブで、花見や山の頂上で景色を眺めた。洗濯物干し、ごみ捨て、花の水やりが日課となっている。外出支援に代わる、レクを職員が考えて月1回実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診や本人が必要なものは預かり金を持参し、支払いをしている。利用者には職員でお金を管理し、預かっているという声かけをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からかかってきた時には本人が希望すれば出て話しをしていただく。小包など頂いた場合は職員が介助し、電話してお礼の言葉を伝える援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外がよく見えるように明るい間はカーテンをいつも開けて季節を感じて貰い、暑い時は閉めるようにしている。屋内は随時掃除をし、汚れや水漏れなどいつまでも無いように気をつけている。汚物は臭いが出ないように新聞紙で包み蓋付き容器に保管し、ごみと共に毎日屋外設置場に出している。	リビングでは、2ユニット間がまっすぐ繋がっている。朝のレクでは、元気よく体操をしたり、歌を歌ったりしている様子が窺えた。テラスに出て、日向ぼっこをすることもある。TVを観たり、塗り絵をしたり、数字合わせをして、自分の時間を過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや長いすをホールの隅に設置し、ゆったり座って過ごせるようにしている。気の合わない利用者は席を離したり、状況に応じてテーブル・席を変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた寝具を持参していただいている。重いものや使い勝手の悪い物は適宜、使いやすい物に交換して家族に持参していただいている。普段、畳で休んでいた方や落下の危険がある方は畳を敷いて利用していただく。	備え付けは、ベッド、エアコン、カーテン、タンス、奥の4部屋のみトイレ付。全室、窓からは自然と雄大な山々を眺めることができる。家族や孫の写真を飾ったり、好きな本を読んだりして過ごしている。誕生日に職員からプレゼントされた色紙を大切に飾っていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はフラットにし居室トイレや廊下には手すりを設置して移動時に自力でも動きやすくしている。居室のベッドも個々の生活条件に合わせた高さに調整したりたたみを敷いたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				